

コムドリ

Sturnus philippensis

ムクドリ科・夏鳥



撮影：飯嶋良朗

コムドリ（オス）

名前の由来

小さいムクドリの意。ムクドリは、椋（むく）の実を食べるのでついたといわれる。漢字名：小椋鳥

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ
ウ

樹木

(在来種) 花

(外来種) 花

哺乳類

(鳥類) 鳥

(鳥類) 草原・樹林
ワシタカ

特定種

該当なし

形態的特徴

全長（くちばしの先から尾の先まで）19cm。ムクドリより小さい。体の大きさの割に尾がやや短く見える。くちばしと足は黒い。

オスは頭・顔が白く、頬が赤茶色。背は黒く紫色の光沢がある。翼は黒いが緑の光沢もあり、大きな白い斑がある。腰は淡いオレンジ色。脇が黒っぽい灰色。

メスは頭・顔が灰白色で、つながるように下面が灰白色。翼は褐色で先は黒っぽい。

声：繁殖期には木の茂みの中で「チィチョチィチョー、ピューィキュルキュル、ジョイジョイジョイ」などと明るい声と濁った声を交えてさえずる。

地鳴き（さえずりではない普通の鳴き方）では「キュルリキュルリ」などと鳴く。また、警戒声として「ジェーッ」と濁った声も出す。

類似種と区別点：ムクドリ。

ムクドリは全身が黒っぽく、顔に白い羽があり腰が白色。くちばしと足が黄橙色。



コムドリのオス。赤茶色のほおが目立つが、背や翼に見られる紫や緑の光沢も美しい



コムドリのメス

生息環境・分布

東北及び北海道では平地の村落が近い明るい林（本州では山地の村落や市街地）に生息する。十勝では夏鳥。

分布：主にサハリン南部、南千島、日本で繁殖する。冬はフィリピン、中国、ボルネオ島に渡る。

日本には夏鳥として渡来し、本州中部以北で繁殖する。

北海道には4月下旬に渡来する。平地に生息し、繁殖する。十勝地方には4月下旬から5月上旬に渡来する。平地から低山帯に生息、繁殖する。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
十勝出現期					繁殖							
フィリピンなど (越冬期)	越冬										越冬	

食性・他生物との関わり

動植物を食べる。クモや昆虫、サクラやヤマザクラ、ブドウなどの果実を食べる。

主な採食場所は木の上で、樹幹部で餌を探して、枝から枝へと移りながら採食する。

秋の渡りの時期にはミズキやアカメガシワなどの木の実を食べるという。

捕食者は猛禽類など。



ハルニレの実をついばむコムドリ（オス）

繁殖生態

繁殖期は4月中旬から7月、一夫一妻で繁殖する。

繁殖期にはつがいになわばりを持つ。同じ地域に多数が営巣することもあるという。

樹洞やキツツキの古巣穴の中に巣を作る。営巣前にはオスが巣の周りでさえずり、侵入から巣穴となわばりを守る。定着後2週間で巣作りを始める。まず古い巣材の持ち出しをして、その後で新しい巣材として青葉を持ち込むという。オスメスともに巣作りを行うが、作業量はオスが78%を占

めるという。

新しい巣材を運び入れている間に交尾が多くされ、オスが求愛のさえずりをした後、メスがオスに近づいて交尾する。3～7個産卵し、オスメス交代で卵を抱くが、メスの方がはるかに多くの時間抱卵し、夜もメスのみが抱卵する。約15日でヒナがかえり、オスメス共同でヒナに給餌する。約15日育雛する。

興味深い話

- 標識調査で、7年の生存が確認されている。
- 渡ってきた当初はオスはできるだけ多くの営巣場所を確保する傾向があるという。そのため一時的に一夫二妻や一夫三妻になることがあるという。メス同士の争いでたいはいは一夫一妻に落ち着くという。
- なわばりの面積は150～200㎡くらいで採食はなわばりの外で行うという。
- 巣箱を利用したり、人家の屋根の隙間などに営巣したりすることもある。
- コムドリ同士の争いは、巣作りの時期から産卵期にかけてが最も多く、オス対オス、メス対メスの争いが多いという。
- 親鳥はヒナを育てる際、途中（ふ化後10～13日）までは

鱗翅類（ガなど）の幼虫やセミといった動物質の餌を与え、その後、クワ、サクラなどの果実を与えるのだという。

■ ヒナへの給餌回数はオスメスほぼ同じくらいで、オスが給餌協力しないとヒナは巣立つことができない。まれに一夫多妻のままヒナがかえると、オスは最初にかえったヒナの巣の世話しかなくなるため、他のヒナが育たなくなってしまうことがあるという。

■ 繁殖後、夏の間は集団でねぐらを作るという。

■ 渡りの頃は群れで見られ、特に秋は大群を作る。ムクドリに群れに混ざっていることもある。春の渡りは秋ほどの大群にはならないという。

配慮事項

林冠が鬱閉していない、明るい落葉広葉樹林が大事。

参考文献

- 「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」高野伸二 編、浜口哲一・森岡照明・叶内拓哉・蒲谷鶴彦 著、山と溪谷社 1985 (1995 2版21刷)
「原色日本野鳥生態図鑑(陸鳥編)」中村雅彦・中村登流、保育社 1995
「北海道鳥類目録改訂2版」藤巻裕蔵、帯広畜産大学野生動物管理理学研究室 2000
「野鳥ブックスー2 フィールドガイド日本の野鳥」高野伸二・谷口高司・森岡照明・叶内拓哉、(財)日本野鳥の会 1982 (1994 増補版7刷)
「図説 日本鳥名由来事典」菅原浩・柿澤亮三 編著、柏書房 1993
「北海道の野鳥」藤巻裕蔵・小堀煌治、北海道新聞社 1997
「十勝と釧路の野鳥」日本野鳥の会 十勝支部・釧路支部、1987

- 「鳥のおもしろ私生活」ビッキオ 編著、主婦と生活社 1997
「鳥類観測ステーション報告」(財)山階鳥類研究所 1996
「日本の野鳥図鑑1 野山の鳥」国松俊英、偕成社 1995

- 小池重人 (1988) コムドリの繁殖生態. Strix, 7 : 113-148.
羽田健三・牛山英彦 (1966) コムドリの生活史に関する研究. I 繁殖期 (1) A. 繁殖期の生活の経過: 繁殖準備・巣作り・交尾・産卵・抱卵・育雛・巣立ち. 日生態会誌, 16 : 225-235.
羽田健三・牛山英彦 (1967) コムドリの生活史に関する研究. II 繁殖期 (2) B. 繁殖期の行動と生活場所 C. 種内関係 D. ナワバリ E. 生産率 F. 繁殖諸仕事の雌雄分担. 日生態会誌, 17 : 49-53.

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(葎原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ